

皆で勝ち取った日本一

いつもオービックシーガルズを応援いただき、誠にありがとうございます。

オービックは、1月3日(月)に行なわれた日本選手権「ライスボウル」に社会人代表として出場し、大学王者の立命館大学に24-0で勝利しました。これにより、5年ぶり4回目の「日本一」となりました。

3回目の日本一となった2005年から今回まで、実に5年がかかりました。特にここ3年間は、2007年のワールドカップ、その後のノートルダムジャパンボウルなど本場アメリカの力を目の当たりにして日本の強化を強く思いました。チームとしても、日本から世界へと続くプロ意識を持った選手を育てること、フランチャイズを千葉・習志野に定めて、地域、コミュニティの様々な方々に試合に来て応援していただくことを大きなテーマとしてやってまいりました。クラブチームという環境の中で、そのことに挑んだわけですが、今年は一里塚を超えたようにも思います。

開幕戦の千葉マリンスタジアムに集まっていた2,687人のお客様、そこから始まったリーグ戦。今までのファンの皆様に加えて、千葉から、習志野から子どもたちが選手の名前を書いたボードを掲げて駆けつけてくださいました。特にセカンドステージ以降のスタンドの応援はすさまじく、3RDダウンに聞こえてくる大声援は、本当に選手の背中を押していただき、優勝への階段を登るチカラとなりました。

まさしく12人目の選手が参戦し、皆で勝ち取った日本一。ライスボウル終了後の勝利者インタビューで、「皆さんおめでとござ

います」と大橋ヘッドコーチが開口一番の挨拶をしたのは、正直なところ、チーム全員の気持ちです。

選手たちも、プロ意識を持って一つの階段を上ってくれたように思います。「毎回の練習で、チャンピオンシッププレイヤーを選びます。チャンピオンシッププレイヤーとは、今日ライスボウルだったら、絶対に試合に出場してもらいたい選手のことです」と大橋ヘッドコーチが夏の練習から始めた新しい試み。これも選手たちとのミーティングで生まれました。ちなみに、ライスボウル当日のチャンピオンシッププレイヤーは31人までになりました。

「選手が主役でワクワクするフットボール」。「ハラハラ」も多かったですが、確かに、選手が輝いた一年。輝かせた人たちが選手たちと一緒に光った一年、でした。

とはいえ、登録メンバー全員が「チャンピオンシッププレイヤー」になったわけではありません。まだ、ちょうど半分です。ライスボウルに出場して活躍した選手でさえ、まだまだ不十分なので2011年度も頑張りますと、追求を続けます。

2010年シーズンはこれで終わりましたが、私たちは、「その先」にあるワクワクをさらに追求します。

引き続き、さらなるご支援、応援を何卒よろしくお願い申し上げます。

オービックシーガルズ
社長兼GM

並河 研



【ライスボウル・レポート】

OUR TIME結実。5年ぶり社会人最多4度目の日本一

第64回ライスボウル 2011年1月3日(月)東京ドーム

vs.立命館大学パンサーズ

力勝負を制し、圧巻の完封劇 オービック 24-0 立命館大学

1Q、立命館をバントに押さえ込んだ次のシリーズ、QB#6 菅原とWR#85 萩山のホットラインが機能します。右サイドライン際で菅原のパスを捕球した萩山が、そのままスピードに乗ってエンドゾーンまで走り切りTD。この試合大事な先制点をあげます。2Qにかけて、学生王者立命館の反撃にあいますが、40ヤードのFGを止め、得点を与えません。それ以降は終始オービックのペースで試合を進めます。すでにパスでTDを決めている菅原は、バスターゲットがないと見るや、すかさずスクランブル。大きなゲインとなって今度はランでTD。さらに前半終了間際にK #1 金親が28ヤードFGを決めて17-0で前半を折り返します。

後半に入っても、立命館得意のラン攻撃をオービックLB陣が素早く対応し、ロングヤードを走らせません。また、パス攻撃にもDB陣が粘り強いチェックで対応。立命

館QBはボールを投げ捨てるしかないほどに追い詰められていました。第4ダウンとなり、立命館が蹴ったバントをWR #22 古谷(晋)がビッグリターン。このリターンで敵陣深くまで攻め入り、RB #20 古谷(拓)が1ヤードを走り、TDを獲得。

4Qでも変わらずオービックペースで試合が進み、前回日本一に輝いたときからチームを率いてきたQB #15 龍村も登場して、この5年間を振り返るような最終Qとなりました。そして最後は菅原がニーダウンして試合終了。24-0で学生王者立命館大学を破り、5年ぶり4回目の日本一に輝きました。

この試合でMVPを獲得したのは今季絶好調だったQB 菅原。また、それ以上に選手の誰もが口を揃えて強調していたのが12人目の選手であるブースターの大声援。まさに全員で掴み取った最高の日本一です。

ゲームMVP (コーチ選出)



Offense MVP

WR#85 萩山竜馬

6回のキャッチで93ヤード。貴重な先制タッチダウンをランアフターキャッチでたたき出す活躍。ランブロックも完璧にごなした。



Offense MVP

OL#53 木村裕二

7つのビッグブロック。ゲームを通じてアグレッシブなブロックを継続。ビッグゲインにつながるキープブロックもみせた。



Defense MVP

DL#11 Kevin Jackson

4タックル、1ハリー(QBに慌ててパスを投げさせること)、1パスカット、1インターセプトと大活躍。QBにプレッシャーをかけ続けた。



Defense MVP

DL#12 Karl Noa

1ハリー、1パスカット、2QBサックをマーク。特に2つのQBサックは相手オフェンスのプランを断ち切るプレーとなった。



Kicking MVP

WR#22 古谷晋也

バントリターンで最長74ヤードを含む、142ヤードを獲得。得点につながるフィールドポジションを確保した。



ALL X League Class of 2010に5選手が選ばれました

2010年度のXリーグ優秀選手【ALL X League Class of 2010】に、オービックスシーガルズから、OL#75 宮本選手、DL#92 紀平選手、DL#11 ケヴィン・ジャクソン選手、LB#2 古庄選手、DB#16 三宅選手が選出されました。また、CENTRAL ディビジョン最優秀選手にRB#21 杉原選手が選ばれました。



左からOL#75 宮本 士 (初)、DL#92 紀平充則 (3年ぶり2回目)、DL#11 ケヴィン・ジャクソン (6年連続6回目)、LB#2 古庄直樹 (7年連続7回目、昨年はDBで受賞)、DB#16 三宅剛司 (初)、RB#21 杉原雅俊 (CENTRAL ディビジョン最優秀選手)

SEA-Cheerがチームワーク賞を受賞しました

2010年シーズンのチアリーダーに贈られる各賞が発表され、SEA-Cheerは「チームワーク賞」を受賞しました。これは、観客から親しまれ、応援を楽しみリードしたチアリーダーチームに贈られる賞で、各ディビジョンから最大1チームが選出されます。SEA-Cheerの本賞受賞は、2005年から6年連続となります。



2010年シーズンは特に「クラウドノイズ」や「ファーストダウンコール」など、ファンの皆さんには毎試合、選手に届く熱い声援を送っていただきました。この賞は、一丸となって試合を盛り上げ、心からの応援をしてくださったスタンドの皆さんと一緒につかんだ賞です。ありがとうございました!

第1回アジア大会 日本代表候補選手にオービックから13名選出

1月3日(月)、日本アメリカンフットボール協会より第4回ワールドカップ [7/8 (金) ~ @オーストリア] のアジア予選を兼ねた「第1回アジア選手権—2/26 (土) 13:00 vs. 韓国代表@川崎球場」のための日本代表候補選手69名が発表され、オービックスシーガルズからは、オフェンス5名、ディフェンス7名、キッキングスペシャリスト1名の計13名が選出されました。強化練習(1/29に開始)を経て、45名の最終メンバーが発表される予定です。

【日本代表候補選手 13名】

QB#6 菅原、RB#20 古谷 (拓)、OL#75 宮本、WR#83 清水、WR#85 萩山、LB#2 古庄、DB#3 滝澤、LB#9 塚田、DB#14 藤本、DB#16 三宅、DL#43 武知、DL#92 紀平、K#1 金親 *古庄選手は試合当日が資格取得を目指している鍼灸マッサージ師の国家試験と重なるため、辞退することとしました。ワールドカップの日本代表をあらためて目指します。

【日本代表チームスケジュール】

1/29 (土)~2/20 (日) 4回の強化練習
2/26 (土) 13:00 第1回アジア選手権 (W杯予選)
vs 韓国代表@川崎球場
7/8 (金)~17 (日) 第4回ワールドカップ@オーストリア

12人目の選手はこうして日本一となった

7月1日に行なわれたパールボウル。この試合、第4Q終盤に13-15と逆転されてしまいます。そのとき、残り時間は1分12秒。タイムアウトも残されており、再逆転するには十分な時間と思われましたが、沸き返る相手チームスタンドに比べると、オービックススタンドは完全に意気消沈してしまったかのようでした。試合はそのまま敗れ、またしてもタイトルを逃してしまいました。NFLのようなスタンドの雰囲気、どうやって作ってあげればよいのか? 事務局としての課題も残りました。

メッセージボードでスタンドを華やかに

開幕戦・千葉マリンスタジアムでの、あるチビッコファンの姿が、「本来、応援はこうであるべきではないか?!」と教えてくれました。

選手への想いや準備の手間を思うと本当にうれしく、こういう応援スタイルが増えたら、スタンドがこんな応援で埋め尽くされたらと思いました。待っていても増えるわけではなく、では何かきっかけがあればいいのではないかと、まずはチーム側からその場を提供してみようと、受付ブースの一角に「メッセージボード工房」として、作成コーナーを設けました。

第2戦では、ホームページでの事前告知もあり試合開始まで途切れることなく、お立ち寄りいただけました。第3戦以降は持参して下さる方もいたり、「最後の仕上げをさせてください」と、持参したボードにもう一工夫するなど、みるみる浸透していきました。

クラウドノイズで参戦

メッセージボードに勇気づけられ、もっと直接的に選手をバックアップしようと、チャレンジしたのがクラウドノイズです。「クラウドノイズって何?」

というところからのスタートでしたが、「みなさんは12人目の選手です。クラウドノイズというプレーで勝利に貢献してください」というチラシを毎試合オービックススタンドの全員に配り、習うより慣れるでトライを続けました。日本ユニシス戦でのフィールドゴールブロックを皮切りに、「選手がクラウドノイズに応え、スタンドの音がさらに大きくなる」というスパイラルが生まれ、加速度的に浸透していきました。JXBでは紙メガホンを10,000枚用意しましたが、瞬間になくなり、あらためてクラウドノイズの浸透ぶりを実感しました。紙メガホンの効果は絶大で、選手によれば、至近距離での会話さえも全く聞こえないほどの凄まじさだったようです。



Twitter効果

こうしてファンの皆さんが声を出して参戦して下さるようになった下支えとして、Twitterの果たした役割が大きかったと考えています。

昨年4月から開設したチーム公式Twitterアカウントですが、現在では2,000名を超える方々にフォローされています。オービックスシーガルズの活動をより多くの方に知っていただきたいと思い始めたTwitterですが、さまざまな好影響をチームにもたらしてくれました。①Twitterを通じて新たにオービックスのブースターになっていただいた方がいたこと。②チームとブースターの間での相互なコミュニケーションが可能になったこと。③選手同士、選手とブースター、ブースター同士の関係性強化につながったこと。特に③では「腹筋ミリオンプロジェクト 勝101」という企画を行ったことも大きかったと思います。腹筋した回数をツイートし、参加者全員で合計100万回を目指すという企画でしたが、シーズン終盤には100名を超える方にご参加いただき、チームとブースターの皆さんとの一体感を高めることにつながりました。

(文責 事務局：高木慶太、高村葉子、佐野裕文)

メインスポンサー

システムインテグレータの **オービックス**

オフィシャルスポンサー



オービックスシーガルズ マンスリーレポート2011年1月号

発行人/並河 研
編集/渡部滋之
制作・デザイン/高木慶太
文/渡部滋之、藤川了輔
発行/株式会社OFC
〒275-0024 千葉県習志野市茜浜3-6-3
tel: 047-452-2224
http://www.seagulls.jp